

2025 年 4 月 30 日

各 位

Abalance 株式会社

当社グループ TOYO の 2024 年 12 月期決算公表に関するお知らせ

当社(代表取締役社長:岡田 竜介)のグループ会社である TOYO Co., LTD (Nasdaq: TOYO、以下「TOYO」)は、4月 28 日(米国時間)に 2024 年 12 月期通期及び下半期の決算を公表しましたのでお知らせします。

※TOYO 決算公表の英語リリースはこちら

<https://investors.toyo-solar.com/news/news-details/2025/TOYO-Co-Ltd-Announces-Second-Half-and-Full-Year-2024-Financial-Results/default.aspx>

※TOYO 決算説明英語プレゼン資料はこちら

https://s204.q4cdn.com/212135244/files/doc_financials/2024/q4/04-28-2025-Toyo-2HFY2024-slides-Final.pdf

1. 2024 年 12 月期通期決算のハイライト

- ・ 出荷量:1.743GW(ギガワット)
 - ・ 売上高:2023 年度の 6,240 万ドルに対し、2024 年度は 184%増の1億 7,700 万ドル
 - ・ 粗利益率:2023 年度の 26.7%に対し、2024 年度は 12.4%
 - ・ 純利益:2023 年度の 990 万ドルに対し、2024 年度は 4,090 万ドル
- ※2024 年度は、純利益に対するアーンアウト条項により特別利益が 3,510 万ドル発生しました。
※当社連結決算では、TOYO の特別利益は同額の連結子会社の投資損失と相殺されるため、2025 年3月期連結業績に与える影響は軽微です。

2. 2024 年度下半期決算のハイライト

- ・ 出荷量:758MW(メガワット)
 - ・ 売上高:2023 年度下半期の 6,240 万ドルに対し、2024 年度下半期は 3,890 万ドル
 - ・ 粗利益率:2023 年度下半期の 26.7%に対し、2024 年度下半期は-12.2%
 - ・ 純利益:2023 年度下半期の 1,180 万ドルに対し、2024 年度下半期は 2,130 万ドル
- ※2024 年度下半期は特別利益が発生した事により、純利益は黒字となりました。

3. 2025 年度の見通し

- ・ 太陽光セルの出荷量は、堅調な市場の需要とエチオピアの新工場の生産能力増に支えられ、3.5GWに達する見通しです。
- ・ 米国テキサス州ヒューストン新工場での太陽光パネル第1フェーズ 1GW の生産を 2025 年半ばに開始する予定です。
- ・ 継続的な事業成長と利益率の向上を反映し、純利益は 3,300 万ドルに達する見通しです。

4. TOYO の会長兼 CEO である Junsei Ryu(当社取締役)のコメント

「2024 年度の売上高は前年比 184%増と大幅に増加しましたが、米国商務省と米国国際貿易委員会がベトナムで事業を展開する太陽光関連企業に課したアンチダンピング関税(AD)と相殺関税(CVD)の影響により、下半期の業績は深刻な打撃を受けました。」

「これらの措置により、最終顧客が関税の最終決定と市場価格の動向を注視する中、市場では納期と価格に混乱が生じました。こうした逆風の中、当社は持続可能な長期的成長と 2025 年の収益性回復に向けた基盤構築に注力しています。エチオピアでは2GW の太陽光セル新工場の立ち上げに成功し、既に生産を開始しています。エチオピアの工場では、旺盛な顧客需要に応え、生産能力の倍増を図り、2025 年8月までに合計4GW の生産能力の確保を目指します。」

「エチオピアでの事業拡大は、当社における関税の影響をミニマム化するだけでなく、グローバル競争力の強化にもつながり、その生産能力は 2025 年内に確保されます。米国テキサス州ヒューストンの太陽光パネル新工場第1フェーズ1GW は、2025 年半ばまでに生産開始予定で、米国製パネルの需要が旺盛な顧客へのサンプル提供を既に開始しています。当社の多様化されたグローバル・サプライチェーンは、太陽光発電の成長スピードとコスト競争力を鑑み、依然として堅調な需要を維持する米国市場への供給において非常に有利な立場にあります。今後も米国市場重視の戦略を維持し、当社の太陽光セル及びパネルにおける生産拠点の生産能力拡大を加速させていきます。」



エチオピアの太陽光セル生産拠点



米国の太陽光パネル生産拠点

TOYO は、太陽光発電市場におけるサプライチェーンの強化を成長戦略に掲げ、今後も更なる企業価値の向上に取り組んでまいります。

以上